

光学天文連絡会会報 No.4

1981年

光学天文連絡会事務局(京大理)発行

Group of Optical and Infrared Astronomers

(G O P I R A)

1 総会のお知らせ

光学天文連絡会の第2回総会を開きます。

・日時 : 5月12日(火) PM 6:00 - 8:00

・場所 : 東京大学理学部天文学教室3階講義室

・議題 : ・新旧運営委員の交替
・今年度の活動方針

2 (1) 第3回 暫定運営委員会の報告

・出席者 石田K, 田村, 石井, 古在, 磯部, 小暮, 佐藤 各^々
小平, 寿岳, 西村, 富田, 清水, 前原, 岡村
家, 奥田, 渡辺悦 (兼古, 辻, 佐々木委員欠)

・時 1981年4月18日 AM 9:00 - 12:00

・場所 東大天文学教室

・司会 石田K 委員長

・報告事項

① WG報告

体制WG(田村), 望遠鏡WG(西村)

国際協力WG(寿岳)の各世話人より第2回
暫定運営委員(1/6)以降の活動について
報告があった。

② 事務局より

運営委員選挙の開票経過について

③ その他

・科学技術振興費の紹介 (小暮)

・München シンポジウムの報告(磯部・小平)

・議事

① 光学天文連絡会総会提出議案について

・総会は 5月12日(火) PM 6:00-8:00
(於・東大天文学教室)

・議事日程

委員長あいさつ

経過報告(各WG, 事務局)

昭和56年度活動方針

② 昭和56年度活動方針案の内容

活動方針案の小畧私案が配布され、それにもとずいて討議が進められた。方針案の大筋が了承されたので、文案は事務局に任された。別項に活動方針案を示す。

③ 会報No4の内容と発行時期

No4は、総会のお知らせを含むので春季年会の前に発行することとなった。

(2) 昭和56年度 光学天文連絡会活動方針

1. 活動の目標

- 昭和56年12月までに、望遠鏡建設計画の大筋の合意を得て天文学研究連絡委員会に報告する。
- 大型望遠鏡の新技術について検討し将来の見通しをたてる。

2. WGの活動計画

α) レポートの作成と配布

各WGは、次の課題についてレポート(1500字20枚程度)を作成する。事務局へのメ切りは6月15日。

・体制ワーキンググループ

- ・日本における研究活動の現状と将来
- ・望遠鏡を支える体制、その現状、問題点、および将来のあり方

・望遠鏡ワーキンググループ

- ・NGT: 現状と技術的展望
- ・天文学と望遠鏡の構成(大型・中型・小型それぞれの役割とどんな相互関係で光学赤外天文学を支えているか)

・国際協カワーキンググループ

- ・世界における国際協カの現状
- ・日本における現状と将来

事務局は、上記レポートを印刷の上、7月上旬までに会員及び関連分野の研究者に配布する。

β) それ以後の活動

各WGは、レポートにもとづいて会員、研究者の意見を汲みあげ、運営委員会と協カして望遠鏡建設計画の全体的合意にむけて協カする。

また、各WGは、必要に応じてテーマ別の勉強会、シンポジウム等を開催する。

3 運営委員会の任務

運営委員会は、日本における天文学の発展を展望しながら望遠鏡建設計画の推進にあたる。

α) 全体的なテーマについてのシンポジウム等の開催
例、日本のNGTをどうするか。

日本における天文学技術者の諸問題

β) 将来計画案のまとめ

運営委員会は、各WGの活動にもとづき、広い視野から問題を検討し、全体的合意の得られるたにき台を徐々に固めていく。10月の秋季年会の頃を目標として意見の調整をはかり、運営委員会または総会等において合意の手続きをとる。

合意の得られた将来計画案は、報告書として、天文研連将来計画小委員会に提出する。また、広く関係方面へのPR文書の作成にあたる。

γ) 将来計画の実現に向けて

望遠鏡建設計画について、12月の天文研連までに、全体的合意が得られるよう最善の努力をする。

合意が得られたならば、運営委員会は、各WGの協力のもとに計画実現への次のステップにすすむ。

3. 国際協カワーキンググループからの報告

現在、国際交流を行なっているグループの調査を行ないました。まだ全部は回収されていませんが、要約すると、次のようになります。

なお、報告の範囲は、狭い意味での光天連の分野に限りませんが、将来の活動は、電波天文、宇宙科学、太陽物理、測地の部門での同じ問題と協同して行なわなければならないことは、いうまでもありません。

研究テーマ

1. 当方機関名 (参加者)
2. 相手方機関名 (参加者)
3. 期間
4. 外国での研究活動所在地、望遠鏡
5. 費用の出所

I 銀河の定量解析

1. 東大天文 (小平)
東京天文台 (高瀬、宮本、岡村、家)
2. ドミニオン天文台 (Van den Bergh, Hutchings)
カルガリー大学 (Pritchett)
シアトル大学 (Sullivan)
3. 1979-1981
4. ドミニオン天文台 188cm 他
5. 学術振興会 (国際協カ)

II 球状星団の基本分光

1. 東大天文 (小平)
2. Dudley 天文台 (Philip, Hayes). Samus [ソ連]
3. 1978 - 1983
4. CTIO 4m, ソ連 6m
5. 自費, 国際研究集会援助 (IAU, 文部省)

III 南天銀河の近赤外気球観測

1. 名大理 (早川, 松本, 村上, 宇山)
宇宙研 (山上)
2. メルボルン大学 (J. A. Thomas)
3. 1978 - 1980
4. Australian Balloon Launching Station.
Victoria Siding Spring 1m
5. 学術振興会, 科研費, 山田財団,
メルボルン大宇宙研国際協力

IV 赤外線による銀河面サーベイ, 銀河中心領域の赤外線偏光観測, Rapid X-ray Bursterの観測

1. 京大理 (奥田, 舞原, 佐藤, 川良, 小林)
東京天文台 (寿岳)
2. ハワイ大学 (Dyck, Becklin, Backman)
3. 1979 - 1980
4. Mauna Kea Obs. 24インチ, 88インチ
5. 朝日学術奨励金, 海外学術調査費 (文部省)

V 銀河系構造の分光学的および測光学的研究

1. 東京天文台 (高瀬, 石田, 前原, 浜島, 北村,
西村, 岡崎)
京大理 (小暮, 大谷, 市川, 加藤, 稲垣, 奥田)
2. Bosscha 天文台 (Hidayat, Sutantyo, Ibrahim,
Raharto, Wiramihardja, Wiyanto)
ITB (Partoharsodjo)
3. 1979 - 1982
4. Bosscha, 51cm Schmidt 望遠鏡, 37cm 屈折
5. 学術振興会, ITB-DGHE

VI 収縮星のスペクトルの連続観測

1. 東京天文台 (磯部, 清水美)
2. リック天文台 (Walker),
ハイテルベルグ天文台 (Appenzeller 他)
3. 1980 - 1981
4. リック 3m, ESO 2m, ハイテルベルグ 1m
5. 文書交換のみ

上記の他にコロンボ計画に基づく海外協力事業団の事業の一環として東京天文台の土屋氏が、韓国国立天文台での天文観測技術に協力しておられます。また、日英協力の一部として、本曹のシュミットとオーストラリアにあるSRCとのシュミットの協同研究、およびハワイにあるUKIRTの利用について話し合いが進められています。これらのいきさつの歴史的背景については、「自然」81年5月号にある小田稔氏の論文「欧米が注目する日本の宇宙科学」を参考にしてください。

また、同論文にも書かれているように、1月末に東京で基礎物理についての日伊シンポジウムが開かれました。宇宙物理学関係では Setti (ボローニヤ)、Scarsi (ローマ) が参加し、特に Setti からは、光の将来計画についても報告がありました。光学天文学におけるイタリアの現状は、かなり日本に類似しており、情報の交換を約束しました。

上記のアンケートには、将来計画を含めて貴重な意見が多くありました。最大の問題は旅費、滞在費のための大きなパイプを作ることです。特に院生、ODの戦力を発揮するためのきめ細かい配慮が必要でしょう。開発途上国との協力問題も強調されました。(寿岳)

4. 光天連 昭和55年度収支決算書報告
昭和55年12月1日～昭和56年4月25日

| 収入 | | 支出 | |
|----|---------|--------|---------|
| 会費 | 149,000 | 事務雑費 | 3,890 |
| | | 送料・通信費 | 42,215 |
| | | 次期繰越金 | 102,895 |
| 計 | 149,000 | 計 | 149,000 |

(会計 岩崎)

5. 回覧板

・新入会者

・川端 潔

Goddard Space Flight Center
Institute for Space Studies NASA
2880 Broadway, New York
N.Y. 10025, U.S.A.

・浜部 勝

東大理

・前田 芳廣

063 札幌市西区西野6条9丁目639

・浅田 正

京大理 花山天文台

・渡航

・松本敏雄

名大理 4月26日5月24日

西ドイツ、アメリカへ

(Max Planck Institute, Heidelberg)

・定金晃三 }
・高田昌英 }

大阪教育大 6月20日より7月1日まで

東大理

リエージュ大(ベルギー) IAU シンポジウム

"Upper Main Sequence
chemically peculiar stars"

・事務局

606 京都市左京区北白川

京都大学 理学部 宇宙物理学教室

光学天文連絡会 事務局